

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2021年9月①号



「いのちを守れ！国会ひらけ！」

あまりにも無責任な菅首相&自民党政権

菅首相が辞任を表明し、自民党の総裁選にも出ないことを急に言い出しました。その理由が「コロナ対策に専念したい」とのこと。しかし、それならばなぜ、野党が求めている臨時国会を開き、コロナ対策を検討しないのでしょうか。あまりにも矛盾しています。しかも、これまでもっとやれることはあったと言わざるをえません。

世界的パンデミックとなっている新型コロナウイルス感染症は、収束の目途が見えません。次々出てくる変異ウイルスに対して、人類は世界的規模で対策をしていく必要があります。

菅首相が2021年8月25日の記者会見で「明かりははっきりと見え始めている」という発言したことには批判の声が広がっています。菅首相が辞めて他の自民党の方に自民党総裁が変わっても何も変わりません。「**政権を変えるしかない**」と強く思います。皆さんどうでしょうか？



こくた恵二事務所前で「いのちを守れ！国会開け！」のプラカード掲げ、アピールしました。こくた事務所は東堀川通り下立売の角です。お気軽にお立ち寄りください。

地域に足を運ぶ 声を聞く！

こくた恵二衆議院議員と一緒に、地域の皆さんにコロナ禍の影響や暮らしや生業の状況を伺っています。先日は染色創家：本郷大田子さんを訪ねました。（写真）こくた恵二衆議院議員のお連れ合いさんも染色家ということで、話が弾みました。ぼかし染めと言っていたが、「虹染め」と名乗るようになったいきさつや、「コロナ禍で仕事が減っている今、やらなくてはならない仕事から、やりたい仕事ができる」と芸術家としての思いもお聞きしました。しかし、経営としては着物離れの生活実態などもあり、ご苦労されています。

素晴らしい伝統技術と産業をなんとか守っていかなくてはなりません。



本郷大田子さんの素敵な着物の作品の前で、作品にかける思いを伺うこくた恵二衆議院議員（左）

つばやき：まったくひどい！京都市の行財政改革計画

案の段階で実施した市民意見募集（パブリックコメント）では9000件を超える意見が寄せられました。その意見と向き合い、策定したと市民新聞9月1日に大きく書かれていましたが、内容は、最初の案とほとんど変わらず、「敬老乗車証は現行制度を継続してほしい」「保育園の補助金は削らないでほしい」という声に応えるものになっていません。形だけの意見聴取では意味がありません。「市長はやめてほしい！」と書いたという方もおられました。独自の政策を後退させる中で、「子育て日本一」と言えません。実際に、若い方々の京都市外への転居も増えているとのこと。なんと悲しいことでしょうか。自民党首相だけでなく、京都市長も変わってもらわなくてはならないと強く思うこの頃です・・・。



菅首相はコロナ対策に専念したいと言われていますが、対策がなさ過ぎます。先日「こんな京都にしたいなあ@北区」宣伝に小さな子ども達も応援参加。この子ども達の未来のために頑張らなくてはなりません。

保育園現場の近況

アンテナ

前の緊急事態宣言の時には、保育園を自主的に休んだ場合、保育料や給食費の返還が補償され、人手の厳しい保育園現場では、自主的に休んで下さる方もおられ、なかなか乗り切られたとのこと。

しかし、今回の緊急事態宣言は状況が違います。政府による自主的に休んだ場合の保育料の返還がなく、保育園としてもお願いにしにくいと・・・。

さらに、今回はデルタ株コロナウイルスに変わり、若い方や子どもにも感染する機会が多く、濃厚接触者になる確率も高くなっています。濃厚接触者になると感染していても、2週間仕事を休まなくてはならなくなり、保育や医療現場などでは、ただでさえ人手不足で大変な職場がさらに、厳しい状況になっています。出会うすべての保育士さんから悲痛な声をお聞きしました。

